



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

2011年 vol.7

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

実験！実験！！また実験！！！！

今年から始める 1ha モデル農場を成功させるため、達成するために、様々な実験を行っております。

1. 水の抜けない田作り。カンボジアのお米の平均収量 1ha あたり 2.5 トンというところ 1ha あたり 1 トン弱という結果に終わってしまった昨年の初のお米作り。もう失敗は出来ません。

このお米作りの一番の問題は、水の抜けない水田、しっかりと水を豊かに蓄えることの水田作りです。SAJ Farm の土壌は砂壤土といわれる土の性質で、簡単に言えば砂地です。現在ある水田及び、これから水田を造成する土壌は、すぐに水が抜けてしまう土なのです。カンボジアの強烈なスクールでも、水は簡単に土を通り抜けて、半日も経てば水田の水はなくなってしまいます。

この砂地の水田を改良し、水を蓄えることの出来る水田にするために、現在、水田の耕盤を固めたり、土に粘土を客土したりする実験を行っています。

日本の水田を見ると砂地の水田でも豊かに水を蓄えています。あれはなぜかという、土の表面から数十センチ下に鋤床層と呼ばれる水を通しにくい耕盤があるため、その上に水を溜めることができるのです。SAJ Farm の水田は、この鋤床層がないため、簡単に水が抜けてしまうのです。

鋤床層は、本来はその田んぼを牛が何年も歩き回り出来ていくものです。そこで、私たちはこの鋤床層を作るために、トラクターで何度も田んぼの上を走り込み地盤を固める実験を行っています。また、他に土そのものに保水性を持たせようと、粘土を購入してきて、土に混ぜ込む実験もあわせて行っています。

2. 米作り。田収穫の米作りと Japonica 米の試作です。乾季での米作りと少ない肥料での多収穫、高温地でも作れる肥料を見つけます。

3. 砂地でも育つ野菜作り。畑作については、なんといっても発芽の悪さが問題です。カンボジアで購入した種は昨年の雨季に直播したものの、芽が出るものではありません。

そこで畑作については、育苗のために土に腐葉土を使ったもの、堆肥を使ったもの、ボカシを混ぜ込んだもの等々9パターン程作り、それぞれの土で発芽テストを行います。



奥が、実験水田。トラクターで踏み固めました。
手前が、養殖池。ナマスがいいます！！

この実験で必要なものが育苗トレーです。カンボジアにはなく、今までは自作した苗箱を使っていました。ところが、先日、孤児院とサポートプランのお米支援で新たにお米を卸すことになった会社に挨拶をさせていただきに行ったところ、偶然発見しました。話を聞くと、タイから輸入しているとのことでした。後日早速購入しに行くと、社長さんが SAJ の活動に非常に感心されて、本来であれば 10 枚 50\$ のところを 10\$ で持って行けとおっしゃってくれました。また、野菜の種も販売しており、これもなんと原価で譲ってくれるとお話をいただきました。

4. 魚の養殖。この養殖に関しては、当初、私たちは全くの無知でした。カンボジアで何の魚を飼うのがいいのか見当もつかないほどでした。

昨年 11 月、マレーシアにある大学で養殖を教えている先生を紹介していただいたところ、先生がカンボジアまで SAJ Farm を見に来てくれました。先生は、数カ国の発展途上国で養殖業を経験してきたプロ中のプロで、まったくの素人の私たちに養殖の心得・技術に関して丁寧に教えてくださいました。

そして、飼育する魚に関しては、先生のアドバイスからナマズに決定しました。先生のお話によると、ナマズは、飼育が簡単で、その飼育技術も取得しやすく、東南アジアでは需要が十分あることから、将来研修をするにあたって最も費用対効果が高いというものでした。その後、書籍で勉強しますと、こんなに生存に関して強い魚がいるのかと驚きました。また、その時、先生から、まず小さな池からナマズを飼うことというアドバイスもいただきました。

そこで、早速実験開始です。ナマズを、1kg 約 150 尾を 6\$ で購入。確かに、とても元気で、自作した池、1m×2m×深さ 40cm 程(ナマズは池の深さ 30cm で十分飼育できるのです!) から逃げ出してしまうくらいです。しかし、3 ヶ月で 300g まで成長し出荷できるという話でしたが、1 ヶ月経ても全く大きくなってはくれません。1 尾 10g 程度です。先生に相談すると、飼育密度が高いとのこと。間引けばグリーンと大きくなるとのことでした。

そこで現在は新たに飼育密度を 2 パターン用意し、ナマズの飼育実験を開始しました。餌をどんどん食べて、グリーンと大きくなってもらえることに期待です。

今回は、実験について少しだけお話させていただきました。しかし、実験をされていて、今最も苦戦しているのが実はインフラの弱さです。日本ではすぐに手に入るものが、ここにはありません。井戸、肥料小屋・作業場や電気等、農業を営むためのインフラが十分でなく、手こずっています。特に井戸については、乾季に入り、予想外に水が足りないことから実験に大きな支障をきたしています。これらの工事については、まもなく着工の予定ですが、このインフラの整備も、今回お話ししました実験と同様、現在の優先事項となっています。

編集後記

2011 年、勝負の年です。今年は、1ha の循環型モデル農場が稼働します。このモデル農場の成功なくして、SAJ Farm の成功はありません。必ず成功させます。(五月女)